



令和 5 年

第 4 回 名 寄 市 議 会 定 例 会 行 政 報 告

名 寄 市

はじめに	1
“市民と行政との協働によるまちづくり”	2
・市民主体のまちづくりの推進	2
・人権尊重と男女共同参画社会の形成	2
・交流活動の推進	3
・広域行政の推進	5
“市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり”	6
・健康の保持増進	6
・地域医療の充実	6
・子育て支援の推進	7
・高齢者施策の推進	8
“自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり”	9
・環境との共生	9
・循環型社会の形成	10
・消防	11
・防災対策の充実	11
・交通安全	12
・住宅の整備	13
・都市環境の整備	13
・上水道の整備	14
・下水道・個別排水の整備	15
・道路の整備	15
・地域公共交通	16
“地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり”	17
・農業・農村の振興	17
・森林保全と林業の振興	20
・商工業の振興	20
・雇用の安定	21
・観光の振興	22
“生きる力と豊かな文化を育むまちづくり”	23
・小中学校教育の充実	23
・大学教育の充実	27
・生涯学習社会の形成	28
・生涯スポーツの振興	31
・家庭教育の推進	32
・青少年の健全育成	33
・地域文化の継承と創造	33

本日、令和 5 年第 4 回定例会の開会にあたり、これまでの主な行政事項について、その概要をご報告申し上げます。

はじめに

はじめに、本年度の文化賞等、各種表彰について申し上げます。

11 月 3 日の文化の日に、名寄市文化賞条例に基づき、^{わかつきごろう}若槻五郎さんに文化賞を授与いたしました。

「芸術部門」、「民謡」で受賞された若槻さんは、東京衛生学園^{しんきゅう}鍼灸学科を卒業後、昭和 51 年に若槻^{しんきゅう}鍼灸科を開業され、当時のお客様より誘いを受け民謡を始められました。その後、民謡の分野において、幅広く活躍されており、道北地区民謡連合会では会長を務め、北海道民謡連盟においては副会長や尺八技能副委員長を歴任されるなど、北海道の民謡及び尺八の発展に貢献されております。

さらに、公益財団法人 日本民謡協会 北海道道連連合では、令和 5 年から委員長に就任し、北海道の民謡会のトップとして会の運営及び会員の指導、育成に努め北海道の民謡文化の向上にも貢献されております。

また、平成 29 年には、公益財団法人 日本民謡協会民謡民舞全国大会の高年一部において優勝され、併せて国土交通大臣杯を受賞されるなど、個人の民謡における技術の高さも評価され、今回の受賞に

至りました。

民謡の分野のほか、本市の文化の中核でもある名寄市文化協会の会長を10年間にわたり務められ、本市をはじめ道北の文化の向上に多大なる貢献をされました。

名寄市表彰条例に基づく各表彰については、自治、社会福祉、保健衛生、労働、教育文化、住民運動実践の各分野で市勢の発展に寄与された24個人の皆様に功労表彰を、多額の寄附をいただいた7個人、39団体に善行表彰をそれぞれお贈りいたしました。

受賞された皆様には、今後とも本市の発展にご尽力を賜りますとともに、より一層のご活躍とご健勝を願っております。

“市民と行政との協働によるまちづくり”

市民主体のまちづくりの推進

次に、市民主体のまちづくりについて申し上げます。

市民と行政との協働によるまちづくりを進めるため、名寄市町内会連合会と連携のもと、全4会場で「まちづくり懇談会」を開催し、多くのご参加をいただきました。会場での貴重なご意見を踏まえ、市政への反映に努めてまいります。

人権尊重と男女共同参画社会の形成

次に、男女共同参画社会の形成について申し上げます。

11月13日から22日まで、女性に対する暴力をなくす「パープルリボン運動」の取組として、市内商業施設において内閣府男女共同参画局作成ポスターの展示を行いました。多くの市民の興味を引くよう、会場をパープルのバルーンで装飾し、併せてドメスティック・バイオレンスに関する相談窓口の周知などを行いました。

交流活動の推進

次に、交流活動の推進について申し上げます。

山形県鶴岡市との交流事業では、10月14日から15日まで鶴岡市こまぎはら小真木原公園で開催された「つるおか大産業まつり2023」に、東京都杉並区との交流事業では、11月4日から5日まで杉並区桃井原っぱ公園で開催された「すぎなみフェスタ2023」に出店し、なよろ煮込みジンギスカンやソフト大福などの特産品販売を通じて、本市のPRを行いました。

ふるさと会との交流事業については、東京なよろ会の総会が10月7日に東京都内で開催され、スキーやゴルフツアーのほか40周年記念事業の実施など、本市の地域振興につながる事業に取り組むことが確認されました。

姉妹都市カナダ国カワーサレイクス市リンゼイとの交流事業につ

いては、名寄・リンゼイ姉妹都市友好委員会が、9月23日と24日に、交換学生派遣の代替事業として、市内で「N a y o r oでプチカナダ留学」を開催しました。参加者は英会話のみの環境で様々なプログラムを体験し、国際感覚を養う機会となりました。

台湾との交流事業については、10月18日から2日間、台湾の学校関係者6人をお招きし、教育旅行先としての当地域の魅力をPRしました。

さらに、11月13日から1週間、農業青年台湾派遣事業で3人を台湾に派遣し、^{たいほし}太保市での農業実習などを通じて、お互いの地域の文化や農業を肌で感じるとともに、農業青年同士の交流を深めました。

また、先の派遣に合わせ、名寄日台親善協会の台湾親善訪問団とともに、8年ぶりに^{たいほし}太保市などを表敬訪問し、コロナ禍での経験を踏まえた事業実施や今後の交流などについて意見交換を行いました。

次に、移住・定住について申し上げます。

「名寄市移住促進協議会」では、10月14日に大阪府、11月11日に東京都で開催された「北海道移住・交流フェア2023」に参加し、移住相談及び本市の魅力発信を行ってまいりました。関西圏は依然と

して北海道への移住ニーズが高く、本市の四季折々の自然豊かな環境がPRになることを実感したところです。

また、魅力発信事業の取組の一つとして、「みんなに推したい名寄の夏」をテーマにインスタグラムフォトコンテストを開催しました。観光大使の新井舞良さんをはじめ、北海道名寄高等学校新聞局にも審査員としてご協力いただき、応募作品423点の中から入賞作品9点を決定し、市内5カ所で行いました。

市民はもちろん、帰省や観光で訪れた方からも多くのご参加をいただき、名寄への想いを深めるきっかけとなり、関係人口の創出につながりました。

広域行政の推進

次に、定住自立圏について申し上げます。

10月11日に北・北海道中央圏域定住自立圏市町村長会議を本市で開催し、定住自立圏共生ビジョンについて確認すると共に、近年圏域市町村でも対応が課題とされている「ヒグマ問題の背景とその対策について」酪農学園大学のよしかず佐藤喜和教授にご講演いただきました。

今後も、国・北海道の動向や他圏域の取組などを注視しつつ、新たな広域連携事業の研究などを進めるとともに、定住自立圏共生ビジョンの着実な推進を図ってまいります。

“市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり”

健康の保持増進

次に、健康の保持増進について申し上げます。

新型コロナワクチン接種については、令和5年9月13日に予防接種法関係政省令が改正され、9月20日からオミクロン株 X B B .^{エックスビービー}
1 .5^{いってんご}に対応したワクチン接種が可能となりました。初回接種を終えた生後6か月以上の方で、前回の接種から3か月以上経過した方が対象となり、本市では、10月11日から接種を開始し、11月13日現在、1,897人の方が接種を終えています。

今後についても、市内医療機関のご協力をいただきながら、希望する方が期間内に接種できる体制整備を進めてまいります。

地域医療の充実

次に、名寄市立総合病院の上半期の運営状況について申し上げます。

患者取扱状況は、入院患者数が延べ4万3,199人で、前年比4,718人の増となり、外来患者数では延べ10万9,396人で、前年比5,366人の増となりました。収支の状況は、事業収益が前年比2億4,823万円増の47億4,237万円、事業費用が前年比1億371万円増の49億

3,524 万円となり、事業収支は 1 億 9,287 万円の純損失となりました。

当院では 10 月 1 日、近年、病床利用率が低下していることや看護職員の働き方改革につなげていくため、一部の一般病棟を休床し病棟の再編を行いました。今後も道北地域の基幹病院として、より安全で質の高い医療を提供するため、引き続き医療スタッフの確保に努めるとともに、医療収益の確保や経費節減による経営の健全化に向け、より一層努力してまいります。

次に、名寄東病院の上半期の運営状況について申し上げます。

患者取扱状況は、入院患者数が延べ 1 万 6,949 人で前年比 574 人の増となり、外来患者数では延べ 2,795 人で前年比 229 人の増となりました。

収支の状況は、事業収益が前年比 4,000 万円減の 4 億 2,292 万円、事業費用が前年比 1,362 万円減の 3 億 1,535 万円となり、事業収支は 1 億 757 万円の純利益となりました。

子育て支援の推進

次に、子育て支援の推進について申し上げます。

本市が設置する、幼保連携型認定こども園等は、昨年 8 月に建設

工事を着工し、本年 11 月 24 日に完成となりました。12 月上旬には本市に引き渡され、その後、保育システム導入に向けた配線工事を実施するなど、令和 6 年 4 月のオープンに向けて準備を進めてまいります。

高齢者施策の推進

次に、高齢者施策の推進について申し上げます。

「長寿を祝う会」については、市内関係団体と実行委員会を組織し、9 月 16 日に市民文化センター E N - R A Y ホールにおいて開催しました。

長年にわたり本市の発展にご尽力いただいた、男性 105 歳と女性 108 歳の最高齢者をはじめ、白寿、米寿を迎えられた方々 238 人と金婚を迎えられた 68 組のご夫婦をお招きし、お祝いを申し上げ、記念品を贈呈しました。

併せて、「名寄市生きがい作品展」を 9 月 13 日から 19 日まで開催し、87 点の力作の数々を市民の皆様にご覧いただきました。

また、町内会など 84 団体が「敬老会」を開催し、75 歳以上の方々 5,636 人が温かい祝福を受けました。

10 月 7 日には、東京都の口腔リハビリテーション多摩クリニック院長である菊谷武^{きくたにたけし}氏を講師に「あなたの老いは舌からはじまる 口

を鍛えて寝たきり防止」をテーマに介護予防講演会を開催しました。

80 人を超える市民の皆様に参加をいただき、健康長寿のための 3 つの柱である「栄養、身体活動、社会活動」について触れ、栄養を摂るためには歯があること、食事や呼吸をするには舌の筋力が大きく影響しているなど、口腔ケアの大切さを学ぶ機会となりました。

今後も高齢者やその支援に関わる方が様々な知識を身に付ける機会の創出など、安心して住み続けられるための取組を進めてまいります。

“自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり”

環境との共生

次に、環境との共生について申し上げます。

9月16日に名寄市風連陶芸センターにおいて、イオンチアーズクラブに所属する小学生を対象としたゼロカーボン講座を行いました。

講座では、地球温暖化問題をテーマとした紙芝居や、陶芸体験を通して、繰り返し使えるものを大切に使うことなど、身の回りでできるエコな生活について、楽しみながら学んでいただきました。

次に、再生可能エネルギーの活用について申し上げます。

再生可能エネルギーによるマチの活力UP事業実証試験実施協議

会では、信金中央金庫創設 70 周年記念事業の企業版ふるさと納税寄附を財源に、物流事業者が活用している充電式保冷輸送機材の電力を太陽光発電による電力へ転換する実証試験を進めてきました。

10 月 24 日に協議会を開催し、1 年を通じた実証試験の効果検証、物流における再生可能エネルギーの活用など、今後の進めるべき考え方について総括したところです。

予定されていた事業がすべて完了したことから、協議会は解散することとし、実証試験で使用した太陽光発電設備については、令和 6 年 4 月開校の智恵文小中学校で活用してまいります。

循環型社会の形成

次に、循環型社会の形成について申し上げます。

本市を含む 4 市町村で構成する名寄地区衛生施設事務組合が事業主体となり進めている次期一般廃棄物中間処理施設整備事業は、9 月 22 日の令和 5 年第 3 回名寄地区衛生施設事務組合議会臨時会において、（仮称）名寄地区一般廃棄物中間処理施設建設工事に係る工事請負契約の締結が議決されましたので、今後、本格的な施設整備が進められます。

工期は、本年 9 月 25 日から令和 9 年 3 月 12 日までとし、来年夏頃まで実施設計を行ったのち、令和 6 年秋頃から工事を着手し、令和 9 年 4 月

の供用開始が予定されています。

消防

次に、消防事業について申し上げます。

10 月末現在までの火災及び救急・救助出動状況については、火災件数は 5 件で、死者 1 人、負傷者 2 人の火災が発生しています。

また、救急出動件数は 1,096 件で前年比 154 件の増、救助出動件数は 42 件で前年比 10 件の増となりました。

コロナ禍で招集人員に制限がある中、実施していた、職員や団員の各種訓練については、現在、コロナ禍以前の規模で実施できており、消防団では消防団幹部研修会として 8 月 23 日に S - K Y T ^{エス ケーワイティー} 危険予知訓練を行いました。

職員については 10 月 16 日に市内のプールを活用した水難救助訓練を実施したほか、他組織との合同訓練については、9 月 7 日に富良野市で開催された広域応援訓練研修会及び 10 月 3 日に旭川市で開催された緊急消防援助隊受託訓練に職員を派遣し、大規模災害時の対応等について訓練を重ね、近年複雑、大規模化する災害対応に備えを進めています。

防災対策の充実

次に、防災対策の充実について申し上げます。

防災知識の普及啓発のみならず防災体験を取入れた体験型の「名寄市防災セミナー」を10月28日に、多くの市民の参加と関係者の協力により行いました。

防災知識の普及啓発については、本年8月の大雨時の気象状況や河川の水位状況等を振り返り、防災ガイドマップを活用する中で、日頃からの備え等の重要性について学びました。

また、ワークショップ形式でマイ・タイムラインを作成することで身近な災害リスクを確認するとともに、「いつ」「どこに」避難するのか等、命を守るために取るべき行動について考えることで、「自らの命は自ら守る」という自助の意識の醸成につながりました。

さらに、応急手当や段ボールベットの組立等の体験から、災害時に役立つ技能等の習得を行い、災害時における住民相互の協力の必要性について理解を深めました。

今後も引き続き、関係機関と連携した防災活動の取組と合わせて、市民の自助・共助の力を高める防災知識の普及や防災・減災意識の啓発についての取組を推進してまいります。

交通安全

次に、交通安全対策について申し上げます。

交通事故のない住みよいまちづくりに向け、9月に秋の交通安全運動、10月に秋の輸送繁忙期の交通安全運動、11月に冬の交通安全運動を行いました。9月29日の「交通事故ゼロを目指す日 旗の波運動」には市内団体や企業等220人の参加をいただくなど、期間中、市民や関係団体のご協力のもと、交通事故防止の啓発を行いました。

住宅の整備

次に、住宅の整備について申し上げます。

公営住宅の整備については、瑞生団地2棟6戸の建替工事は10月下旬に、緑丘第1団地5号棟の改修工事は11月中旬に、それぞれ完成しています。

都市環境の整備

次に、都市環境の整備について申し上げます。

都市公園における施設整備については、大学公園ほか6公園の施設更新は11月に完成しています。

また、街路灯LED化の更新工事については、9月に着工しています。

次に、名寄市公共施設等再配置計画の推進について申し上げます

す。

10月23日に公共施設等再配置計画推進セミナーを開催しました。

ジャーナリストの猪谷千香^{いがやちか}氏を講師に招き、「図書館のこれからとまちづくり」をテーマにご講演いただき、北海道大学の森傑名^{もりすぐる}寄市公共施設等再配置計画推進アドバイザーをコーディネーターとして、堀川真名^{ほりかわまこと}寄市図書館協議会委員長と、施設整備検討を進めている図書館を中心とした複合施設について、まちづくりや地域とのかかわりなど様々な視点でパネルディスカッションを行い、11月8日から9日まで関係職員が関西圏の図書館先進地を視察しました。

これまでの議論や、セミナー、視察などの情報を参考とし、引き続き、計画の推進に努めてまいります。

上水道の整備

次に、水道事業について申し上げます。

安定した給水を確保するための老朽管更新工事については、道道名寄停車場線^{ていしやじょうせん}老朽管更新工事ほか1路線が11月に完成しています。

浄水場設備の工事については、旧風連浄水場井戸撤去工事が11月に完成しています。

また、第2期拡張事業である配水管新設整備工事については10月に完成し、平成28年度から整備を進めていた陸上自衛隊名寄駐屯地

までの配水管工事はすべて完成しました。

検定期間満了にともなう水道量水器取替工事は11月に完成しています。

下水道・個別排水の整備

次に、下水道事業について申し上げます。

公共下水道ストックマネジメント計画に基づく^{かんきょ}管渠の更生工事については10月に完成しています。

個別排水処理施設整備事業については、5基の合併浄化槽の申込があり、このうち4基が9月までに完成しています。

道路の整備

次に、道路の整備について申し上げます。

社会資本整備総合交付金により整備を進めている北3丁目通と南10丁目右仲通は10月に完成しています。

本市単独費により整備を進めている風連東4号線は10月に、南2丁目通、東5号線、風連26線は11月に完成しています。

また、都市構造再編集中支援事業補助金により整備を進めている西3条仲通は11月に完成しています。

次に、橋梁の整備について申し上げます。

名寄市橋梁長寿命化修繕計画に基づき整備を進めている大沢橋おおさわはしの修繕工事は10月に着工しています。

次に、市道の除排雪について申し上げます。

本年度の除排雪対策については、除雪延長 437 キロメートル、排雪延長 147 キロメートルを実施する計画としています。

10月18日に風連地区、名寄地区の除雪事業の契約を締結し、本年度においても効率的で効果的な除排雪体制の確立に努めるとともに、安全な道路空間の確保を図るため、幹線道路ではこれまで同様に複数回の排雪と積上げ除雪を行ってまいります。

また、本年度よりデジタル田園都市国家構想交付金を活用した除雪管理システムの導入に着手しており、デジタル技術の活用による市民満足度の高い除排雪の確立に努めてまいります。

地域公共交通

次に、地域公共交通について申し上げます。

11月1日より、AI活用型オンデマンドバス「のるーと名寄」の運行を開始しました。新たな交通手段としてより多くの皆様に利用されるよう、周知に努めてまいります。

“地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり”

農業・農村の振興

次に、農業・農村の振興について申し上げます。

はじめに主要農作物の作柄さくがらなどについて申し上げます。

水稲については、10月25日現在の農林水産省の作況指数では、全国で101の「平年並み」となり、北海道は104、上川では105の「やや良」となりました。本市の11月8日現在の出荷状況は概ね7割で、もち米ごめ23万5千俵、うるち米まい1万9千俵、合計25万4千俵となり、昨年度より若干下回る見込みとなりました。

畑作については、作柄さくがらは順調でしたが、8月前半の大雨の影響により、かぼちゃ、スイートコーンにおいては昨年に比べ収量の低下が見られ、馬鈴しょ、てんさいについては平年並みの収量となっています。

畜産については、9月末での過去1年間の生乳生産量は1万5,690トン、乳代にゅうだいは平均で1キログラムあたり108.7円となり前年比112%となりました。

次に、薬用作物推進について申し上げます。

カノコソウ生産組合において、作業負担の軽減を図るための収穫物洗浄機を9月29日に設置完了し、生産基盤の確立が図られてきて

います。

次に、経営所得安定対策について申し上げます。

転作作物では、10月31日時点で対象農家434戸、対象面積2,996ヘクタールで、水田活用の直接支払交付金が8億1,859万円、畑地化促進事業が6,138万円、コメ新市場^{しんしじょう}開拓等促進事業が2億8,147万円、畑作物産地形成促進事業が2億135万円となり、合わせて13億6,279万円の交付を予定しています。

畑作作物では、直接支払交付金のうち、既に営農継続払い4億1,003万円が交付されており、今後は数量払いの交付を見込んでいます。

次に、畜産振興について申し上げます。

食肉センターについては、と畜場の利用増加に対応する焼却施設が10月20日に完成し、運用を開始しています。

公共牧場については、5月25日から10月21日まで、市内酪農家12戸から264頭を受入れ、適正な飼養管理により個体の資質向上を図りました。

次に、労働力確保対策について申し上げます。

名寄市立大学生の農作業従事では、アスパラガス、スイートコーンの収穫期において、受入農家 26 戸に学生 81 人が参加しました。

スマートフォンアプリによるアルバイト募集では、農家 6 戸、延べ 644 人の募集に対し 522 人が成立しました。

また、外国人技能実習生は農家 2 戸へ 4 人の受入れとなったほか、人材派遣会社の特定技能実習生の利用は農家 12 戸 21 人の受入れとなりました。

次に、有害鳥獣対策について申し上げます。

10 月 31 日現在で、エゾシカ駆除については、484 頭で前年比 63 頭増加し、アライグマ駆除については、328 頭で前年比 56 頭増加しています。

ヒグマ対策については、本年度の捕獲許可期間を 12 月 30 日までとしており、10 月 31 日時点の出没情報は 59 件と前年比 8 件増加しています。

次に食育・地産地消について申し上げます。

11 月 11 日に「2023 地産地消フェア in なよろ」が開催され、生産者や加工グループなどの出店に加え、本年度は会場での飲食も再開し、地場産の農畜産物、加工品などの販売を通じて地産地消の推進に

取り組みました。

森林保全と林業の振興

次に、森林保全と林業の振興について申し上げます。

森林環境譲与税の活用については、これまでに「森林整備」では間伐や下刈りなど 130 ヘクタールを、「人材育成と担い手確保」では、事業者が実施する新規就業奨励金の支給など、林業担い手確保の取組に対し支援を行うほか、「普及・啓発」では、10月21日に開催された名寄川堤防の桜並木を守り育てる会の植樹活動などに支援を行いました。

商工業の振興

次に、商工業の振興について申し上げます。

名寄市中小企業振興条例に基づく支援については、これまでに企業活力強化支援事業 3 件、創業支援事業 4 件、販路拡大支援事業 2 件、新事業創出支援事業 2 件、ホームページ制作支援事業 1 件、街なかにぎわい創出事業 4 件、名寄で人づくり事業 15 件、プロフェッショナル人材確保支援事業 1 件の交付決定を行い、事業者の関心も高く、広く制度を活用いただいています。引き続き、中小企業の設備投資、販路拡大及び人材確保を促進するため、支援メニューの周知・

利用促進に努めてまいります。

「名寄市ずっと住まいる応援事業」については、10月2日より下半期の受付を開始しました。

電子地域通貨「Y^ヨo^ロr^カo^カc^カa」については、11月23日に開始されました。本市としても、事業実施主体及び関係団体との連携を強化し、行政ポイント・公共施設での利用をはじめ、今後における市内DXも踏まえ、市内経済の活性化はもとより、市民の健康増進や本市の知名度向上、コミュニティづくりなどの地域振興に資する取組を進めてまいります。

雇用の安定

次に、労働関係について申し上げます。

ハローワーク名寄管内における9月末の雇用情勢について、有効求人倍率が1.51倍と求職者に対し求人数が上回る人手不足の状況が継続しています。

また、9月末現在の来春の管内新規高等学校卒業予定者は439人で、このうち、求職者数は81人、管内での就職希望者は38人となっています。

引き続き、ハローワークをはじめ、関係機関と連携し、最低賃金の改定が雇用情勢に与える影響に注視しつつ、雇用の安定と促進に努

めてまいります。

観光の振興

次に、観光の振興について申し上げます。

道の駅「もち米の里☆なよろ」については、9月末までの上半期の入込客数は24万3,918人で前年比3,087人の増加、売上額は前年比3.6パーセントの増加となりました。新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和元年度と対比して、入込客数は81.7パーセント、売上額は98.3パーセントとなっており、徐々にではありますが回復しつつあります。今後とも、入込客数、売上額がいずれもコロナ前の水準まで戻るよう、指定管理者と連携し、魅力ある施設づくりに取り組んでまいります。

9月9日、10日から3週間にわたり土日に豪華観光列車「ロイヤルエクスプレス」がJR名寄駅を訪れました。この間、総勢300人を超える市民の皆様がお出迎え・お見送りに訪れるとともに、NPO法人なよろ観光まちづくり協会と連携して“餅つき”を披露し、もち米日本一をPRするなど、乗客の皆様の記憶に残るおもてなしで、大いに盛り上がりました。

ピヤシリスキー場では、スマートゲートの設置工事が終了し、リフト業務にかかるスタッフの負担軽減を図り、安全対策の強化に注力

するなど、利用者の利便性・安全性の向上に努めてまいります。

また、時間単位の管理が可能なシステムとなることから、10 時間券・20 時間券を設定するなど、新たな需要の開拓を図っていくとともに、利用実績データを活用し、ターゲットに応じた新たなアプローチを行っていくことに加え、将来的には、ほかのスマートゲート導入スキー場との連携の可能性など、利用者の増加を目指してまいります。

“生きる力と豊かな文化を育むまちづくり”

小中学校教育の充実

次に、小中学校教育の充実について申し上げます。

生きる力を育てる教育の推進として、確かな学力を育てる教育の推進については、11月10日に名寄東小学校と風連中学校を会場として、名寄市教育研究大会を開催しました。名寄東小学校では、「学びを自覚し、自立した読み手となる子供の育成～個別最適な学びと協働的な学びを生かした文学的文章の学習を通して～」をテーマに、国語科の授業を公開し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業のあり方について、理解を深めました。

風連中学校では、「主体的に学びに向かう生徒の育成～自己肯定感を高める手立てを通して～」をテーマに、数学科、理科、音楽科の授

業を公開し、数学科では、デジタル教科書を活用した授業について協議を行いました。

豊かな心を育てる教育の推進については、9月28日に市民文化センターE N - R A Yホールにおいて、子ども達の豊かな情操を育むため、名寄市小中学校音楽発表会を開催しました。児童生徒は練習してきた成果を発表できる良い機会となりました。

学校給食については、旬な名寄産食材を中心とした「なよろ給食の日」を10月3日と31日に実施し、児童生徒が地場農産物に対して理解を深めたところです。

なお、近年の物価高騰による影響で食材費の値上げが続き厳しい運営となっている名寄市学校給食会では、保護者に学校給食費アンケート調査を実施し、その結果を踏まえ、来年4月より給食費の改定を行うこととされました。そのため、本市では、子ども子育て支援の推進と急激な物価高に対する保護者の負担軽減を図るため、今回値上げとなる金額については市が支援を行うとものし、関連する補正予算案を本定例会に提案させていただきますので、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

信頼される学校づくりの推進として、地域とともにある学校づくりの推進については、9月から11月にかけて、各地区において、本年度2回目となる学校運営協議会が行われ、学校評価に基づく教育

活動の進捗状況や地域学校協働活動について協議が行われました。

小中一貫教育については、9月14日に北海道教育委員会主催の「学校種間連携サポート事業」全道研修会に智恵文小学校、智恵文中学校の教員が参加し、義務教育学校開校に向け、小中学校9年間を見通した教育課程の編成と実施について理解を深めました。風連地区においては11月1日に、風連地区小中一貫教育推進委員会小中合同研修会を開催し、小中一貫の教育課程編成に向け、各教科部会に分かれて協議を行いました。

学校における働き方改革の推進については、学校において働き方改革コアチームを編成し、ミドルリーダーを中心に、ICTを活用した業務の効率化、教育活動の改善に取り組んでいるところです。

社会の変化や多様な教育のニーズへの対応として、特別支援教育の推進については、9月12日に、市内小中学校をはじめ、上川管内北部9市町村の教職員等を対象とした特別支援教育研修会を開催し、特別支援教育におけるICTの活用と支援のあり方などについて研修を行いました。

不登校児童生徒等の支援体制の強化については、10月13日に「不登校児童生徒に対する支援の在り方交流会」を開催し、各学校の不登校対応担当者とスクールソーシャルワーカーが市内小中学校の不登校児童生徒の状況から、今後の対策について協議を行いました。

キャリア教育の推進については、児童生徒の望ましい勤労観や職業観を育てるため、小学校では専門学校と連携し、ホテルや声優などの職業紹介や、市内の商店、公共施設などの社会見学を行いました。中学校では地域企業等に協力を依頼し、職場体験活動を行いました。

部活動改革の推進については、NAYOROスタイル部活動改革推進事業の取組の一つであるICT部活動支援事業として、9月28日にアメリカ合衆国のプロバスケットボール独立リーグの選手として活躍している松田鋼季^{まつだこうき}氏を、10月22日に北海道日本ハムファイターズベースボールアカデミーインストラクターの牧谷宇佐美^{まきたにうさみ}氏を招聘し、選手や指導者に対して直接対面指導をいただきました。今後は、外部コーチとして、撮影した動画を通じてアドバイスをいただくなどICT機器を活用した遠隔指導を行っていただく予定です。

安全・安心な教育環境の整備として、名寄中学校整備事業については、名寄中学校校舎等改築検討委員会を中心に検討協議していた基本設計業務が完了し、実施設計業務を進めています。

智恵文小中学校整備事業については、太陽光パネル設置工事が完成し、中学校校舎改修工事及び外構工事は施工期間内の完成に向けて順調に工事が進んでいます。

11月11日に、実行委員会主催による智恵文小学校・智恵文中学校の統合記念事業「お別れ会」が智恵文小学校で行われました。

当日は、児童生徒、保護者、地域の皆様の参加のもと、両校のスライド上映や校歌斉唱により、思い出の詰まった智恵文小学校、中学校の歴史を振り返りました。

また、令和6年4月に開校する智恵文小中学校の新たな校章の紹介と考案者の遠藤百々花^{えんどう もも か}さんに感謝状を贈呈しました。

危機管理体制の確立では、10月13日に名寄市通学路安全推進会議を開催し、児童生徒が安全に通学できるよう各関係機関が連携し、通学路の安全対策を図るよう協議を行いました。

10月から私と教育長は、市内全小中学校の学校訪問を行っています。授業の参観や児童生徒と給食を一緒に食べて過ごすことで、日常の子どもたちの様子や学校の状況を把握する良い機会となりました。

なお、学校訪問でも、多くの子どもたちから要望がありました。近年の酷暑対策として、児童生徒の生命と健康を守り、学ぶ意欲が高まる環境の中で教育活動を進めていくため、市内小中学校への冷房設備の設置に向け、関連する補正予算案を本定例会に提案させていただきますので、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

大学教育の充実

次に、名寄市立大学について申し上げます。

令和6年3月末で任期満了となる名寄市立大学の学長選挙が11月15日に行われ、^{いえむらあきのり}家村昭矩氏が当選されました。

なお、任期は、令和6年4月1日から令和10年3月31日までの4年間となります。

名寄市立大学への理解を深め、進路決定の参考としていただくため、高校生と保護者を対象に本年度3回目のオープンキャンパスを9月30日に行いました。来場型で行い、高校生127人、保護者96人の参加がありました。

各学科教員による模擬授業や学生との交流、保護者には「なよろを観るバスツアー」にて、在学生の生活スポットや実習先など各所を巡り、本学及び本市の魅力を伝えるとともに、学内ツアーでは、学生の修学及び生活環境をより身近に感じていただきました。

今後は、11月に行われる学校推薦型選抜・社会人選抜入学試験から2月及び3月に行われる一般選抜前期・後期へと続いていきます。

今後も、地域に根ざした教育活動の展開と名寄市立大学の特色と専門性を活かした学生確保の取組に努めてまいります。

生涯学習社会の形成

次に、生涯学習社会の形成について申し上げます。

9月24日に、市民文化センターを会場に「生涯学習フェスティバル

ル2023 in なよろ」を開催しました。出会いの広場には3団体が出演、ワークショップブースには飲食販売ブースも含め13団体が出展し、そのうち8団体が体験教室を行いました。

名寄ピヤシリ大学では大学祭を開催しました。作品展示は、10月17日から24日まで、市民文化センターにおいてクラブ活動で制作した作品のほか、修学旅行や研修旅行のまとめなど学生の力作84点が展示されました。また、10月24日には、芸能発表を行い、学年やクラブ活動で練習を重ねてきた歌や踊りを発表しました。

風連瑞生大学では、9月28日から1泊2日の日程で札幌、小樽方面へ4年ぶりの研修旅行を行いました。16人の参加者は、施設見学を通して学生間の交流を深めました。

智恵文友朋学級^{ゆうほう}では、地域包括支援センターと連携のもと、楽食^{らくたべ}健幸講座^{けんこう}を8月から9月にかけて3回開催し、フレイル予防のゲームや軽体操、食事を通した健康維持について実習を交えながら学習を深めました。

名寄市公民館では、10月3日から全7回の日程で、市民講座「アコースティックギター体験教室」を開催しています。初心者をはじめ16人の受講者は、チューニングやコードの押さえ方など、演奏方法を学んでいます。

次に、市立図書館について申し上げます。

読書週間企画として、10月29日に「ハロウィンおはなし会」を開催し、家族連れなどの参加をいただき記念撮影コーナーもにぎわいました。

11月3日の「文化の日特別開館」では、雑誌リサイクルやフィルムコートサービスを行い、多くの参加をいただき好評を得ました。

次に、北国博物館について申し上げます。

10月13日から11月7日まで、企画展「懐かしの建屋・昭和の暮らし展」を開催し、今はない市内の建物と昭和時代の手仕事を、水彩画やスケッチ画、実際に使われた道具を展示して紹介しました。

また、11月10日から12月5日まで、企画展「^{きはらやすゆき}木原康行銅版画展」を開催し、フランスで活躍した名寄出身の銅版画家 木原康行 氏の作品と、ご親族から寄贈された制作に関わる資料を展示しています。

次に、なよろ市立天文台について申し上げます。

10月21日のプラネタリウム誕生100周年を記念し、なよろ市立天文台プラネタリウムにおいて、オーロラ映像の投影など3週連続で様々なイベントを行うとともにプラネタリウムに関する展示を行い

ました。

11月3日から5日間、移動式天文台車ポラリスⅡを東京都杉並区へ派遣しました。小学校3校などで観望会を行い、延べ1,782人の区民の皆様にご観望していただきました。

生涯スポーツの振興

次に、生涯スポーツの振興について申し上げます。

スポーツ施設の整備では、利用者ニーズや利用頻度が高いスポーツセンタートレーニング室のセットダンベル・ダンベルラック及びスミスマシンを更新し、より良いトレーニング環境を整えました。

また、8月5日から6日にかけて続いた大雨の影響により、ピヤシリシャンツェアウトランの土砂が一部流出したため、コンクリート補強を含めた埋め戻し等の災害復旧工事を行いました。

スポーツ振興事業では、子どもたちの運動機会の提供、市民の健康づくり、商店街の賑わい創出を目的とし、Nスポーツコミッション主催の街なか運動会が9月10日に開催され、延べ443人が参加されるとともに商店街のご協力により飲食ブースを設け、イベントを盛り上げていただきました。

また、市内の中学校部活動やスポーツ少年団等で活動している小中学生及びその指導者が北海道名寄高等学校の部活動を体験する、

名寄高校部活動版オープンスクールを同校、名寄市、名寄市教育委員会の共催で10月21日に開催し、子どもたちが将来にわたりスポーツ・文化活動に親しみ、継続できる環境を地域全体で改めて考え直す機会となりました。

さらに、11月1日には、ジュニアスポーツエコシステム形成事業の説明会が参加希望競技団体に対し行われました。本事業では、Nスポーツコミッションが主体となり、部活動地域移行を含めた、小学から高校にかけて地域内で一貫した指導体制の構築を目指します。

スポーツ合宿推進事業では、JOCジュニアオリンピックカップ2024 全日本ジュニアスキー選手権大会兼全日本小・中学生選抜スキー大会が本市で開催されることが決定しました。市内関係団体の皆様のご協力に感謝を申し上げます。

大会は来年3月6日から10日の日程で開催が予定されており、地域一体となって選手をお迎えできるよう、準備を進めてまいります。

家庭教育の推進

次に、家庭教育の推進について申し上げます。

11月19日に家庭教育学級合同研修会「幼児期からの強い足づくりケア教室」を、市民文化センターで開催しました。参加した親子は、幼児期からの足ケアの重要性を学びました。

青少年の健全育成

次に、青少年の健全育成について申し上げます。

11月23日にスポーツセンターにおいて、第17回名寄市子ども会フットサル大会を開催しました。小中学校や子ども会を通じ参加した児童生徒は、ゲームや応援などを通じて交流を深めました。

次に、青少年センターについて申し上げます。

10月26日に名寄市青少年表彰式を行い、学校や地域活動などにおいて顕著な功績のある3個人、2団体を表彰しました。

また、小学生から高校生までを対象に、10月から名寄市青少年健全育成標語を募集し、11月28日に最優秀作品の表彰を行いました。

地域文化の継承と創造

次に、地域文化の継承と創造について申し上げます。

9月19日に市民文化センターEN-RAYホールを会場に、落語家のちょうかるうももか蝶花楼桃花さんらをお招きして、市内の全中学生を対象に落語教室を開催し、伝統文化である落語について学びました。

11月2日から3日にかけて、ふうれん地域交流センターを会場に、風連文化祭を開催しました。作品展示では15団体、2個人から560点

を超える力作が出展されました。

また、演芸発表では、小学生から高齢者まで16団体から192人が演奏や踊り、歌などを披露し、会場に集まった750人を超える市民が、大きな声援を送り、楽しいひと時を過ごしました。

また、第66回市民文化祭は、11月4日から5日にかけて、市民文化センターを会場に開催しました。市民文化センターE N - R A Yホールで行われた芸能発表には、日頃から練習を重ねてきた歌や踊りなど24団体から303人が出演し、東館を中心とした展示発表には、29団体、3個人から1,143点の作品が展示されました。約1,300人の市民が会場を訪れ、芸能発表や展示作品を楽しみました。

11月23日には、名寄駐屯地音楽隊と名寄朔北太鼓のご協力をいただき、市民文化センターE N - R A Yホールを会場に、避難訓練コンサートを開催しました。公演中の災害を想定し、当日訪れた観客とスタッフが一緒に避難訓練を行う貴重な体験となりました。

以上、主な行政事項について、その概要を申し上げ報告といたします。